

報告

地域医療確保のための住民活動に関する 懇談会

地域医療部

昨年に引き続き、地域医療を守るための住民組織の代表の方々との懇談会を3月23日(土)に開催した。4団体5名にお集まりいただき、各団体より活動をはじめた経緯や活動内容をお伺いし、その後意見交換を行った。以下に概要を報告する。



活動のきっかけ

南松山の医療を考える草の根の会・小林事務局長：5年前の新聞に「道立江差病院が民営化されるのではないか」と掲載された。当時、道立病院は、少人数の医師で急性期から慢性期まで24時間、必死に対応していたが、町民は、短期間で医師が交代することや長期療養可能な場所が少ないにもかかわらず退院を迫られること等から病院に不満を抱き、半数が函館市内の医療機関を受診していた。不平・不満ばかりでは変わらないという思いから、平成20年5月に「地域医療を守ろう・道立病院を守ろう」をテーマに集会を開催し、道立病院・中田院長から病院の現状を報告いただいた後、総看護師長や厚沢部町国保病院長に参加してもらいパネルディスカッションを行った。医師等の声を聴くことで、多くの町民が道立病院の抱えている問題を知り、一緒にどうにかしていかなければならないという機運が高まり設立された。

地域医療を守る会「折り鶴」・有澤会長：3年前の秋、日本経済新聞の記者に「道立羽幌病院の医師が最盛期の3分の1となったが、どう思うか？」と聞かれ「地域住民は制度や行政が悪いと批判ばかりしていることを考え直し、医師に長く居てもらうための工夫や地域医療をどのようにしていくかについて、町全体の問題として自分たちで考えるべきではないか」と発言し、新聞に掲載された。当時、農協・漁協・産業・金融等の9団体で地域経済戦略会議を立ち上げようとしていた。それぞれ自分たちの業績を伸ばすため活動をしているが、経済が低迷する中、これからは各団体で協力し地域経済を盛り上げていくべきであると素案を作成したが、条例化などの問題がありうまくいかなかった。道立病院があるということは、経済効果が大きい。受診した患者は買い



物をして帰るし、透析治療を受けるため転入してくる人もいる。そして何よりも安心して生活ができる。地域経済戦略会議のメンバーが中心となり、地域医療を守るための活動をしていこうと、平成23年3月に設立した。

本別町病院ボランティア運営会議・古川氏：本別町国民健康保険病院は平成12年に新築移転し、翌年「思いやりを持ちひとにやさしく、ていねいな医療の実践により、地域に愛される病院になろう」とする基本理念を制定した。当時の病院スタッフは「地域に愛される病院になるためには、どうしたらいいのだろうか？」と考え、平成13年春に長野県・諏訪中央病院を見学した。ボランティアが病院を支えている姿に感動し、見習うことにした。平成13年9月、諏訪で活躍されている鷹野和美先生を講師として、第1回ボランティア養成講座を開催し、同時にボランティアを募集した。病棟ボランティア2名、ガーデンボランティア1名、飾り付けボランティア1名で平成14年4月に活動を開始した。

別海町医療サポート隊 医良同友・寺井会長：北海道中小企業家同友会南しれとこ支部別海地区会の会長をしている。中小企業経営者は家族・従業員の健康を守る役割があり、会社を地域でしっかり運営することが地域経済を支え、地域貢献につながると考え「中小企業振興基本条例」の制定に向けて活動をしていた。街のいろいろな問題を拾い上げると、行政が医師不足や医療体制に頭を悩ませていることを知った。行政任せでなく、町民として医療を守るために何か活動をしなればと感じた。町立別海病院の院長は、専門や高度先端医療を目指す医師が多く、地方にはなかなか来てくれないと語った。「民間に何をしてほしいか」尋ねたところ「町外から来た医師はどこにご飯を食べに行つていいかわからない。仲間もおらず、さびしい思いをしているので、連絡網を作してほしい」と言われた。そこで、平成21年11月からサポート隊の活動を始めた。

現在までの活動・今後の予定

南松山の医療を考える草の根の会：小児科受診に関するアンケートを行ったところ「緊急性が高いと思った」「様子を見ていたが判断できず不安だったので受診した」が9割で、コンビニ受診が多いわけではないことが分かった。母親たちはこのアンケートを通じて察してくれたようで、道立病院の小児科医

から「時間外の受診が減った。配慮を感じる」と評価を受けた。また、2年程前から、保健所の協力を得て介護職・医療職等の地域連携のための勉強会を実施してきたが、昨年8月に「南檜山医療・介護連携推進会議」が発足したので、現在はこの活動に参加している。会報については、地域の医師や道立病院を紹介する「ずなこま」を平成22年6月に創刊し、江差町広報誌に折り込んでもらい、毎月約4,500世帯に届けたが、昨年11月に23号をもって終了した。現在は南檜山医療・介護連携推進会議の会報「リンクルみなみひやま」を発行し、南檜山全5町の住民にニュースを届けている。さらに、江差には、研修医や札幌医大の学生が病院実習で来るので、医療だけでなくありのままの地域を見てもらうなど地域で育てていく工夫や歓迎会を行っている。

今後の取り組みについて、今ある資源を密接かつ有効に利用できるように、行動できることから進めていこうと協議している。まずは、地域の医療機関・介護施設の取り組みの報告会を行いたいと考えている。

地域医療を守る会「折り鶴」: 医師・医療スタッフの歓迎会、夏の交流会、医師・看護師によるミニ講演会、機関紙の発行、病院内に感謝の掲示板設置などを通じて地域の理解を深める活動を行っている。

今後は、総会において規約を改正し、羽幌町内に限っていた会員および活動範囲を苫前町・初山別村に広げる予定である。また、同時に若い層の会員拡大を図っていききたい。医師確保は行政・議員に任せ、当会では、医師・医療スタッフとの交流を図り、地域を理解してもらうことを第一に考え、これからも活動を拡大・充実をしていきたいと考えている。

本別町病院ボランティア運営会議: ボランティア登録者は、仕事の関係や体調不良、町外への転出などで減り、現在は「病棟ボランティア」「絵手紙ボランティア」「ガーデンボランティア」、アイスノンカバーなどを作る「縫製ボランティア」を行っている。以前は、草刈り、散髪、読み聞かせ、口腔ケア、ぬり絵等もしていた。病棟ボランティアは、入院患者の話し相手となり、折り紙や散歩などを行っている。ガーデンボランティアは、花が次々と咲くように作業をし、患者の目を楽しませている。昨年は、葉がきれいなサツマイモを植え、収穫後は、ボランティアで豊作感謝の会を行った。「次は何を植えよう」と話が膨らみ、おいしく楽しいひと時を過ごした。

自分が楽しみながら、できることを無理のない形でやり、それが病院や患者のためになればいいと思いい活動をはじめて10年が経過した。始めたころは入院期間が長い方が多く、病棟ボランティアを楽しみに待っていてくれる方も多数いたが、入院期間が短くなり、同じ患者と接することが少なくなった。しかし、話を聴いてほしい方、傍らにいてだけで落ち着く方もたくさんいると言われ、活動を続けている。ボランティアは高齢化しているの、若い方が参加

してくれることを希望する。

別海町医療サポート隊 医良同友: 当初の活動は、ワカサギ釣りや地引網などで別海の自然を体験してもらった。現在は、町民に対しての健康講座を開催し、その中で医師から町立病院の現状も話してもらっている。町民に基礎的な医療知識を広めるとともに、医師の激務を理解してもらうことで、コンビニ受診が低減できればよいと思い取り組んでいる。また、勤務している先生や姉妹都市である枚方市民病院からの研修医の食事や趣味などにつきあったりしている。活動の一つとして、別海出身の医師が育ち町立別海病院に戻ってきてほしいという思いで「医療フェア・べっかいキッズドクター」という医療体験型のイベントを行い、子どもたちに意識付けをしている。女性部は町立別海病院が昨年10月に新築移転したので、12月まで病院案内ボランティアを行った。

医師・医療スタッフに楽しんでもらい、少しでも長く住んでもらえるような活動を続けていきたい。

意見交換

以前の病院の悪いうわさだけが引き継がれて、今どういう状況か知らない人もいるので、現状を理解してもらいたいという思いで会報を発行していると報告があった。短期間で医師が変わることをポジティブに捉え、会報を通じて「新しい技術を持った医師が来る」と発信することも有効だとコメントした。

また、本日参加して「医師は大切だ」という思いから、医師だけに目を向け過ぎてきたのではないかと、今後は患者や病院全体を見る必要があると感じたので、活動を検討したいとの意見もあった。

最後に、宮本副会長から、北海道が実施した『医師不足地域に従事する条件のアンケート調査』の1位は「交代できる医師がいる」で、医師不足地域で何年間か診療を行う熱意を持っている医師は多いが、自分が辞める時に交代してくれる医師がいることが重要と考えており、2位は「医師の勤務環境に対して地域の理解がある」で、給与の問題ではなく、地域ぐるみで医師を大事にしてくれることを重要視していると説明した。住民は、長く勤務してくれる医師を希望するが、1～2年しか勤務できない医師もいることを理解して受け入れ、地域にいる間は一生懸命頑張ってもらうため、率直に話し合える関係を築いてもらいたい。また、地元の病院をどうしていくかについては、街づくりの一環として取り組んでほしい。道内で活動をしている団体の交流の場がないので、いずれは各団体の情報や意見交換していただける会を開催できればと考えていると述べた。



本懇談会では、各団体より貴重な話を伺うことができた。みんなが地域医療を守るという意識を持ち、さまざまな活動を行っている各団体に敬意を表したい。